

熱崩壊型顆粒フラックスについて

《特徴》

およそ400℃の熱を受けると顆粒が崩壊し、粉末フラックスの様相に近づく。

Table.1 粒度分布の比較

粒度分布 【wt%】		熱崩壊型顆粒 (柱状顆粒)		中空顆粒	粉末
		加熱前	加熱後		
【mesh】	【mm】				
9 up	2.00 up	0.0	0.0	0.0	0.0
9~16	2.00~1.00	0.2	0.0	0.0	0.0
16~35	1.00~0.42	97.2	9.7	53.1	0.0
35~70	0.42~0.21	0.0	27.7	38.9	0.0
70~100	0.21~0.15	0.0	7.3	4.5	0.0
100 under	0.15 under	2.6	55.3	3.5	100.0
合計		100.0	100.0	100.0	100.0

《顆粒崩壊について》

およそ400℃で体積が20倍近くに膨張する原料を配合しているため、モールド内に添加された後、柱状顆粒が崩壊します。【次頁参照】

《効果》

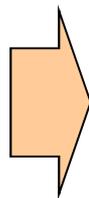
1. 粉塵が少ない ⇒ 作業環境が改善される
2. モールド内での拡がり性がよい ⇒ 溶鋼表面の被覆性が向上する
3. 熱伝導率が従来の顆粒品よりも低くなる ⇒ 断熱保温性が良くなる

Table.2 熱伝導率の比較(一例)

	従来顆粒	熱崩壊型顆粒	中空顆粒	粉末
熱伝導率 (kcal/mh°C)	0.43	0.34	0.39	0.31



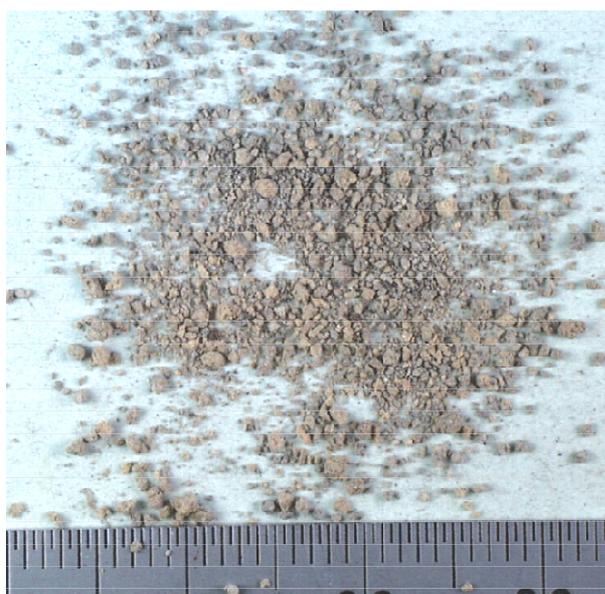
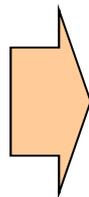
顆粒品 0.8mm徑



600°C × 30分加熱後



顆粒品 1.4mm徑



600°C × 30分加熱後